

【取組内容①】 オンラインで他校の生徒と繋ぐ～模擬裁判『少年の日の思い出』（1 / 2）

1. 本実践の背景とねらい

本単元は、文学的文章の読み取りを通して考えた内容を話し合いで深めていくことを目的としている。題材は、ドイツの小説家ヘルマン・ヘッセの純文学「少年の日の思い出」（東京書籍）である。大きく二つの場面で構成されており、語り手（視点人物）が変化すること、明暗の表現が巧みであること、美しい描写や表現が特徴的であることなど、様々な視点での読み取りが可能である。なかでも、「僕」の心情描写や行動描写、心情の移り変わり、対照的な登場人物である「エーミール」との比較は、この作品の中でも重要な要素であると考えられる。その内容について、主体的に読み取ったことを話し合う活動を通して、多角的で深い読み取りを実現すること、話し合いで意見交換した内容を基に自らの考えをまとめることを目指し、本活動を設定した。さらに、多様な他者との話し合いを通して、広い視野や多角的なものを見方を獲得したり、正確で丁寧な話し合いのスキルを身につけたりするために、他校とオンラインで話し合いを行うことを計画した。

2. 実践内容

2-1. 課題の設定

まず、作品を読み取り、文章の特徴をまとめた。生徒が見つけた特徴は右の通りである。この時点で、中学校学習指導要領国語第1学年の「読むこと」における、「（1）一場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化について、描写を基に捉えること」について考えている生徒がいることが分かる。さらに、行動描写と心情の関係性を踏まえた深い読み取りを実現するため、「模擬裁判」という活動を設定した。この活動では、同時に、「話すこと・聞くこと」の指導事項である「話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること」も指導する。生徒は、原告側と被告側に分かれ、どのような内容を論拠とするのか、班ごとに決定した。

2-2. 情報の収集

今回、論拠となる内容を「作品中の描写」に絞ることで、教科書を主体的に読み、情報の収集を行った。また、裁判ということもあり、実際に窃盗罪や器物損壊、不法侵入がどのような場面で成立するのか調べる班もあった。

2-3. 整理・分析

集めた論拠を、冒頭陳述、質疑応答、自由討論で扱う内容に分け、役割分担を行った。また、相手の立場で主張してくるであろう意見、質問してくるであろう内容を予想し、それに対する質問や反論も用意した。さらに、一度学級内で模擬裁判のプレ授業を行うことで、自分たちの論拠の弱い部分や、質問内容の不十分な部分などを確認し、練り直しを行った。

文章の特徴を読み取り、まとめよう

☆登場人物・相関

・私（二場面）

・密、彼、友人（二場面）→僕（二場面以降）

・エーミール（先生の息子）

・「僕」の母

・「僕」の妹

・お手紙いさん

☆場面設定・時代

・一場面…1900年代前半

・それ以降…1800年代後半

☆構成（四場面構成）

・一場面 P154 L1 ～ P156 L11 … 大人になつてからの話

・二場面 P156 L12 ～ P159 L13 … ナユウの授業について

・三場面 P159 L14 ～ P164 L13 … ウンツァンヤメレウを盗む

・四場面 P164 L4 ～ P166 L10 … 後悔し、謝罪に行く

☆文章の書かれ方

・全体で書かれている。

・一～二…時間 二～三…時間 三～四…場所 で交換

・情景描写（窓の外には、外では、強く匂う乾いた荒野など）

・行動描写（急いで引き返し、指で粉々に、彼はランプのほや、

・心情描写（食るような、つとじりた感じ、僕は妬み、盗みをし

・人物描写（休憩になると、微妙な羞色が、この少年は、など）

・主に行動描写が多い。二場面は心情描写、三場面・四場面は

行動描写。

☆その他

・一場面で語り手が変わる。

・三・四場面は行動から人物の心情を察することができる。

